

J A P I C

国産材マーク 1周年シンポ

森林再生事業化委

日本プロシエクト産

業協議会(JAPIC、

会長 宗岡正二・新日

鉄住金会長)の森林再

生事業化委員会(委員

長 米田雅子・国産材

マーク推進学会会長、慶

大特任教授)は8日、

木材会館で「国産材マ

ーク設立1周年記念シ



今井長官

ンボジウム」を開催し、国産材マーク普及の事例発表のほか、「国産材の利用拡大をめざして」と題するディスカッションを行った。

米田委員長は「国産材マークは民間の自助努力によって、国産材を広めていこうという運動です」と普及活動の意義を述べ、参加者に協力を呼び掛けた。

今井敏・林野庁長官が来賓としてあいさつし、「社会全体でも表示、認証に対する関心が高まっている中、国産材マークを契機に木材、国産材の利用促進の機運を高めてほしい」と、国産材マークに

対して期待を述べた。国産材マーク制度は国産材の製品であることを表示するマーク。日本の森林を元気にするため、産業界からの提案として国産材マークを創設した。

国産材製品 利用の弾みに

マーク創設
1年でシンポ

国産材マーク推進会とJAPIC（日本プロシエクト産業協議会）森林再生事業化委員会は8日、国産材マークの創設1周年を記念し、東京都内でシンボジウムを開いた。国産材マークは、丸太や製材、合板などに付

け、国産材の製品であることを示す。マークも活用しながら、国産材の利用を国民全体に広げていくことを確認した。

マークは同委員会が創設し、「国産材100%」など使用割合も記載する。国産材の利用を促すことで、森林の適正管理、再生を目指す。

シンボジウムに参加した今井敏林野庁長官は、マークを契機に国産材利用の機運を高め、「20

20年の）東京オリンピック・パラリンピックにまで結び付けていけるような大きなうねりにできれば」と期待を表明した。

事例報告では、実際に国産材マークを付けた製品を作る企業や、マーク入りの製品を使う企業が現状を説明した。製品の紹介の他、製品を住宅に使用してその旨を工事中の養生シートや広告で表示している事例や、液状

化対策として地中に丸太を埋め込む工事での使用事例が紹介された。参加企業は、今後も一層マークの普及に向けた取り組みが必要だとの考えを示した。